

カリキュラムについて

同朋大学仏教学科では、「真宗学分野」と「仏教史学分野」の二つの学びの道筋を持ち、「基礎学の充実」「選択の自由」「実践的学習」「より高度な学問研究」をキーワードに充実したカリキュラムを組んでいます。学生は、選択した分野に必要な基礎学や、分野別の専門的授業および実習科目を興味に応じて履修し、さらに分野選択に関わらず、学生のニーズに沿って、自由にカリキュラムを組み立てることもできるように構成されています。それぞれの能力や考え方にふさわしい学びを見つけていってください。

ゼミ（演習）や講読はもちろんのこと、講義でも小人数教育が徹底されております。仏教を課題とする学問は、教えるものと教えられるものに距離があっては成り立ちません。教えるものもまた、法（ダルマ）に学ぶものなのです。

○ 真宗学

親鸞によって顕らかにされた仏教を主体的に学ぶことを基礎とし、日本の思想哲学の結晶とも言われる「親鸞の道」と、現代社会に生きる「わたし」という主体との緊張した関係の中で、その本来の意義を明らかにしていこうとするものです。文献学的研究を基礎とすることはもちろんのこと、同朋大学が大切に育んできた「教化学」という実践的仏教の伝統を具体的に学びます。

○ 仏教史学

現代を生きる私たちの主体的な問題意識を大事にしながら、インド・中国・アジア・日本の仏教の歴史・文化・思想が持つ意義について総合的に探求します。

○ 演習科目

仏教学科学科専攻科目中の必修科目である「演習」は、以下の通り履修してください。

第1学年

全員が基礎演習Ⅰ・Ⅱを履修します。

第2学年

全員が基礎演習Ⅲ・Ⅵを履修します。

第3学年

選択したゼミ教員の真宗学演習Ⅰ・Ⅱ、あるいは仏教文化演習Ⅰ・Ⅱを履修します。

第4学年

第3年次に引き続いて、選択したゼミ教員の演習を履修します。

◎ 仏教学科教育科目の履修にあたって

—いのちを学ぶ場—仏教学科の意義—

仏教を学ぶということは、すなわち人間を学ぶことです。物質文明を生み出した社会は、効率化と経済性ばかりに眼を奪われ、そこに存在する人間を問うことを遠ざけています。

また、仏教の知識を得ることだけが「仏教を学ぶ」ことではありません。普遍的真理＝法（ダルマ）に、自らを照らし出し、自己とは何か、人間とは何かを問い、そして自己と社会の関係を自覚していくこと。それは精神的・内面的追求にとどまらず、現代社会、文化の諸問題との関係性においておこなわれるべきものなのです。

同朋大学仏教学科は、目先の実学に左右されることのない、自らのいのち（存在）を学ぶ学問の場です。ここでは一人ひとりのいのちが、真実に開かれていくための社会を求めていきます。

同朋大学履修体系図（仏教学科）

学年	学科専攻科目			ゼミ	教養共通科目			
	4 年次	<p>【実習】 教化学実習Ⅰ、Ⅱ</p>	<p>【卒業課題】 論文指導、卒業論文</p>		<p>【演習（ゼミ）④】 真宗学演習Ⅲ、Ⅳ 仏教文化演習Ⅲ、Ⅳ</p>			
3 年次	<p>【真宗学講義②】 教化学教義Ⅰ、Ⅱ</p>	<p>【仏教文化講義】 仏教史（インド） 仏教史（中国） 仏教史（日本） 仏教と平和 仏教と人権Ⅰ、Ⅱ</p>	<p>【総合文化講義】 仏教と生命倫理 仏教と福祉 仏教文学 仏教美術 インド哲学 中国思想 日本文化史（思想史） 日本文化史（民俗学） アジア文化 キリスト教神学</p>	<p>【講読演習】 浄土三部経講読演習Ⅰ、Ⅱ 浄土論註講読演習 選択集講読演習 教行信証講読演習Ⅰ、Ⅱ 仏教文化講読演習Ⅰ、Ⅱ</p>	<p>【演習（ゼミ）③】 真宗学演習Ⅰ、Ⅱ 仏教文化演習Ⅰ、Ⅱ</p>	<p>【国際】 海外語学研修 海外文化研修</p>	<p>【インターナショナルシップⅠ～Ⅳ】</p>	<p>【キャリア教育③】 キャリア開発の実践</p>
2 年次	<p>【真宗学講義①】 七組教義Ⅰ、Ⅱ 真宗史Ⅰ、Ⅱ</p>			<p>【総合文化講義】</p>	<p>【演習（ゼミ）②】 基礎演習Ⅲ、Ⅳ</p>			<p>【キャリア教育②】 キャリア開発の展開</p>
1 年次				<p>【演習（ゼミ）①】 基礎演習Ⅰ、Ⅱ</p>	<p>【教養】 【総合】 名古屋・中村学 【スポーツ】 【情報】</p>	<p>【宗教科目】 宗教と人間（釈尊と現代） 宗教と人間（親鸞と現代）</p>	<p>【外国語】 <選択必修> 英語 5、6 フランス語 1、2 ドイツ語 1、2 中国語 1、2 ハングル 1、2</p>	<p>【キャリア教育①】 キャリア開発の基礎</p>